

報 告

日本リハビリテーション工学協会 第2回災害対策リハ工学セミナー

氏家記念こどもクリニック 古郡 恵

令和元年5月11日(土)札幌で第2回災害対策リハ工学セミナーに参加しました。第一部は、東洋大学の繁成剛先生が講師として強化段ボールワークショップ「つくってみよう!強化段ボールでつくるイスやテーブル」が行われた。第二部は「大規模災害とリハ工学～災害にリハ工学ができること～」というテーマで、「胆振東部地震の状況」を桂先生より、「強化段ボールによる避難所支援の報告と可能性」を繁成剛先生より、「過去の災害から学ぶ普段からしておきたい備え」を島川弘美先生、「大規模災害とリハ工学」を相良次郎先生よりお話頂き、最後にはパネルディスカッションがあった。

第一部の強化段ボールワークショップでは、小型テーブルを作りました。強化段ボールは耐久性、耐水性に優れており、木材よりも細工が容易なため、避難所で靴箱や棚や机などの必要性が出た時に、スペースや場所に合わせたものを作ることができる素材と感じた。参加者全員で段ボールベッドを作成した。簡単に作成可能で、ベッドがたわみやすい部分の原因と対策を話し合った。

第二部では、桂先生より胆振東部地震の支援活動についての課題が述べられ、福祉用具の提供は、特に歩行器などが必要な対象者には2日後には速やかに提供されないと運動機能の低下が懸念される点が印象に残った。現行の制度では早くても1週間かかることについて課題も述べられた。健康な高齢者でも長期の避難生活で生活不活発病が起きるので、歩行器をはじめとする福祉用具の提供の遅れは、障害のある方の機能低下を引き起こす。有事には物流が

滞ることは仕方がないが、予測されて回避できることは平時から対応を検討する必要があると感じた。

また、障害当事者の状況も述べられ、避難所での生活が困難で自宅に戻る状況が多いことを伺った。特にレスピレーター利用者の困難さが印象に残った。

繁成先生からは、避難所での要望に合わせて、強化段ボールで机や棚を住民の方と作るワークショップを開催された話を伺った。作製された机や棚が仮設住宅に移った後も活用されていることが報告された。また、このワークショップには男性の参加がみられることから、コミュニティの活動に参加の少ない男性にも参加を促せる活動であることは今後の災害リハビリテーションでの関わりにヒントが得られた。

島川先生からは、たくさん見地から日頃の備えを説明して頂けた。一つ一つ、なぜそれが良いのか、どのように使用するのかなども教えていただけ大変参考になった。

相良先生からは、阪神淡路大震災や東日本大震災で経験されたお話を伺いました。平成は災害が多く、今後も起きる災害への備えと、発災・避難所・仮設住宅・復興の各期に必要な取り組みを学んだ。

パネルディスカッションでは、「災害にあった人は、その経験を次の人に伝えていこう」「人間の力では防災はできない、しかし、今までの経験を次につなげていくことで減災はすることはできる」という話がとても心に残った。

当日は、車いすユーザーの方も参加していた。災害時には障害当事者の方の思いや立場に立った支援を考える姿勢が大切であると感じた。

氏家記念こどもクリニック

〒060-0041 札幌市中央区大通東3-1-1

トルチュビル3F